

・ 桜新町アーバンクリニック

飯塚病院初期研修医 林 高大

訪問診療を行っている桜新町アーバンクリニックを見学させていただきました。朝9時からカンファがあり、発表の練習などを行っていました。その後、3人の患者の訪問診療の見学をさせていただきました。全体を通して、一番印象的であったのは情報の共有に重きを置いていたことでした。

訪問診療で重要なのは、医療従事者のなかでの情報共有に加えて、介護に携わる方との情報共有であることを学び、それが達成して初めて、よりよい医療および介護を提供できるということを教えて頂きました。情報共有と効率化のために、ディクテーションによりカルテを録音し、それを代理で文字起こしをしているシステムに感銘を受けました。飯塚病院でも、同様のシステムを仮導入しているものの、まだ、普及には至っていません。その他、電子カルテに加えて、クラウドを用いることで、情報共有を強化している点もあり、情報共有の大切さを実感するばかりでした。

オープンカルテやディクテーションによるカルテ書き、クラウドの運用など、アイデアをより実行に移し、その速度感に驚かされるばかりでした。いまの日本全体の病院経営に足りないことは、多職種力を信じるということとリーダーシップの重要性であることを感じました。医師だけで病院経営をしていたとしても、アイデアは浮かんだとしても、それをうまく運用できないし、運用する方法を知らないため、アイデアが実行されずに終わってしまいます。技術者、経営者など多職種力を借りて、初めて、自分の思いが形にできることを深く感じました。どうしても、自分を含めて、自分ですべてのことをやりたがる傾向にあります。その一つの原因としては、大学時代の経験が強く影響しているのではないかと思います。医学部だけ、部活動が異なり、医学部だけの大会にでます。そんな閉塞感のある環境が大学時代から染み付いているため、どうしても他業種のひとの手を借りないとアイデアがなかなか出てこないのだろうと感じました。

桜新町アーバンクリニックの方々、ご多忙中に、見学をさせて頂きありがとうございました。

